



学校名	山梨県立ろう学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 28回
	地域交流 : 11回
	居住地校交流 : 11回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	学校間交流：ろう学校について知ろう（特別活動）
実施した学部・学年	小学部・5年
<u>実践の様子</u>	
 	
<u>児童・生徒の様子や実践の工夫点</u>	
<p>山梨小学校の児童に聴覚障害について知ってもらうためにろう学校やデフリンピック、手話に関するクイズを行った。クイズは自分たちで考えたが、その中で自分の障害を理解し、他者に伝える大切さに気づいた児童の姿も見られた。当日は自分たちの先輩がデフリンピックに出場することが決まっていることから誇らしい様子で出題していた。クイズは盛り上がり、山梨小学校の児童にとって聴覚障害について理解するきっかけとなった。本校の児童にとっては大勢の前で思いを伝える良い機会となった。クイズは早押しサイトを使用したため、より楽しむことができた。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<p>本校の児童は普段少ない人数の中で活動しているため、今後も集団の中で活動する機会を設けていきたい。関わるきっかけがあっても互いに伝わりにくい場面があったため、教員が入ったり互いに言い直したりすることでさらに児童同士のコミュニケーションの成立を目指していきたい。さらに仲良くなれるようグルーピングを行うなど工夫し、児童同士の関わりを増やしていきたい。</p>	

問い合わせ担当（ 渡邊 絵里那 ）

学校名	山梨県立甲府支援学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 13回
	地域交流 : 6回
	居住地校交流 : 11回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	学校間交流「ポッチャ」「ボウリング」
実施した学部・学年	中学部
<p>実践の様子</p> <p>【第1回】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>【第2回】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	
<p>児童・生徒の様子や実践の工夫点</p> <p>今年度は、第1回、第2回の両日とも敷島中学校の生徒が本校に来校し、直接交流を行うことができた。第1回では、「さいころトーク」での自己紹介とポッチャを行った。さいころを振って出た目の質問に答えることで、相互に知り合うことができた。ポッチャでは、スロープを使ってボールを転がし、敷島中学校の生徒が本校の生徒の手を支えるなどし、本校の生徒もかかわりを受け入れることができていた。</p> <p>第2回の交流では、敷島中学校の生徒が考えたオリジナルルールでのボウリングと成果発表を行った。ボウリングでは、ボールの種類によって一喜一憂し、小さいボールでも沢山倒れるなどし、大いに盛り上がった。第1回と同じチームのメンバーで交流したことで、積極的に声を掛け合う様子も見られた。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<p>中学部では、敷島中学校と年間2回の交流を行っている。今年度は、第1回は本校が活動を計画し、敷島中学校の生徒に本校の生徒について知ってもらう機会となり、第2回は、敷島中学校の生徒が第1回の経験を生かして計画した活動となった。敷島中学校の生徒に活動の内容を考えてもらったことにより、第1回の時よりも主体的に活動する様子が見られ、本校の生徒にも積極的に声を掛けてかかわる様子も見られた。年間2回の交流を有意義なものにし、相互に学びを深めるために活動の内容だけでなく、計画の仕方についても工夫していきたい。</p>	

問い合わせ担当（ 清水 亜希子 ）

<p>学校名</p>	<p>山梨県立あけぼの支援学校</p>
<p>交流及び共同学習 実施状況</p>	<p>学校間交流 : 7回</p>
	<p>地域交流 : 0回</p>
	<p>居住地校交流 : 6回</p>
<p>特徴的な実践例・工夫点</p>	
<p>授業名</p>	<p>学校間交流：お互いの理解を深めよう！（総合的な探求の時間）</p>
<p>実施した学部・学年</p>	<p>高等部生徒全員</p>
<p>実践の様子</p>	
 <p>○×クイズ</p>	 <p>授業交流</p>
 <p>ハンドベル演奏</p>	
<p>児童・生徒の様子や実践の工夫点</p>	
<p>本校高等部では、甲府商業高等学校、日本航空高等学校と三校間での交流を続けている。今年度は6月と12月に本校において対面での交流会を行った。事前に自己紹介カードを交換し、相手校生徒への関心を高めた。1回目の交流では、各相手校によるハンドベル演奏や○×クイズを行った。生演奏やチームでのクイズ対決を通して笑顔や発声等で気持ちを相手に伝え、一体感を感じながら関わることができた。2回目の交流では、授業交流を行った。ポッチャヤかるた、リース作り等グループごとに活動することでお互いのことをもっと知り、じっくり関わり親睦を深めることができた。</p>	
<p>課題点・次年度以降に向けて</p>	
<p>成果として、対面での交流会を実施し、今年度は授業交流も行うことができてよかった。課題としては、三校間のため、日程調整をしたり活動内容について連絡を取り合ったりすることが大変な部分もあるが、メールを中心に連絡を取り合い、当日は計画どおり交流会を実施することができた。今回は一回目は相手校の企画、二回目は本校が企画した。次年度は企画、進行は本校が行い、よりスムーズに当日まで準備をすすめられるようにしたい。交流内容については、今年度の内容を継続し、一回目は相手校による発表、二回目は授業交流を行っていきたい。</p>	

学校名	山梨県立わかば支援学校	
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流	14回
	地域交流	6回
	居住地校交流	11回
特徴的な実践例・工夫点		
授業名	学校間交流 : 同世代の仲間と田植えをしよう (生活単元学習)	
実施した学部・学年	高等部1年生	
<u>実践の様子</u>		
		
<u>児童・生徒の様子や実践の工夫点</u>		
<p>1回目は農林高等学校へ行き、田植えの体験をした。初めての場所、初めての出会いということもあり、最初は緊張している様子が見られた。田んぼまでの道での会話や田植えの活動を通じ、徐々に緊張も解け、会話を弾ませる様子が見られた。初めて田んぼに入り田植えをする生徒もいる中、ペアとなった農林高等学校の生徒に隣でサポートしてもらい、植え方や泥の中での歩き方を教わりながら田植えをすることができた。</p> <p>2回目は、本校で、収穫した米や農林高等学校で栽培した野菜を持参してもらい、調理活動、会食を行った。久しぶりの再会だったが、すぐに打ち解けることができていた。調理活動では農林高等学校生徒と、本校生徒がペアになり、協力しておにぎり、焼きウインナー、味噌汁、フルーチェを作ることができた。協力してできた料理の味は格別で何度もおかわりをする生徒もいた。別れ際はお互いに笑顔で手を振り合う姿が見られ、「また会いたい」と言葉を交わす様子も見られた。</p>		
<u>課題点・次年度以降に向けて</u>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2回交流の交流を経て、生徒同士の関係が深まる場面があったり、お互いの学校を知ることができたりと良い学びの機会になった。 ・ 1回目は田植え、2回目は収穫したお米を使った調理活動ということで、生徒達も意欲的に参加することができた。 ・ 農林高等学校の生徒が積極的に動いてくれ、かかわりのきっかけとなりよかった。 ・ かかわり方に差が見られたので、かかわりを持てるような活動内容を予め設定しておくなど活動内容や支援方法を工夫していく。 		

問い合わせ担当 (山本 恵)

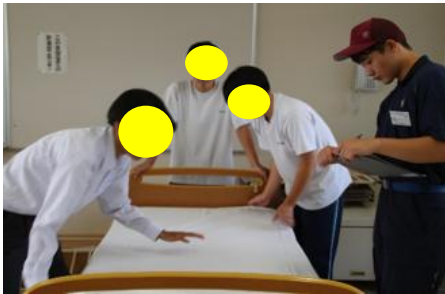
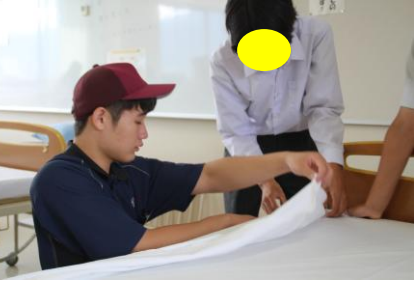

学校名	山梨県立わかば支援学校ふじかわ分校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 3回
	地域交流 : 3回
	居住地校交流 : 3回 (3学期に1回実施予定)
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	総合的な学習の時間
実施した学部・学年	中学部・1・2・3年
<p>実践の様子</p> <p>鰍沢奉仕活動の会7名が来校し、富士川町の郷土料理みみを一緒に作った。地粉を練るところから行い、めん棒で伸ばし、みみの形に成形した。生徒は事前に郷土についての学習をしたり、紙粘土を使って、みみを成形する練習をしたりしていた。当日は実際に粉を使って練ったので、みんな興味をもって行うことができた。</p> <p>鰍沢地区の方々なので、分校の生徒のことを知っている方や校外学習で見かけてくれた方もいて、生徒との会話も弾んでいた。</p> <p>みんなで一つのものを料理することで、一体感が生まれたり、出来上がった料理を輪になって食することで、自然に会話が生まれたり、とても和やかな雰囲気での交流することができた。</p>	
	
<p>児童・生徒の様子や実践の工夫点</p> <p>自作教材「峡南かるた」を使って、峡南地区の特産や特徴について学習を行った。その中で、富士川町の郷土料理みみについても学習をしていたので、活動に興味関心を持たせることができた。毎年同じ活動を行うことで、学校、交流先共に見通しをもって企画・運営ができた。学校の近所に住んでいる方々がほとんどなので、日頃から生徒の活動の様子を見守ってくれており、温かい雰囲気での交流を行うことができた。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<p>鰍沢奉仕活動の会メンバーの高齢化などに伴って、麺打ちが難しいという声が上がった。ただ、みみは富士川地区の郷土料理であり、交流だけでなく郷土の特色や歴史を学ぶ上でもとても意味が深い題材なので、みみづくりを継続していきたいという思いが強い。どのような形を取れば継続できるのかを考えながら内容を工夫して、今後も継続していきたい。また、分校の生徒も地域に貢献できるような取り組み（奉仕活動など）も地域交流の中に取り入れていきたいと考えている。</p>	

学校名	山梨県立やまびこ支援学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 7回
	地域交流 : 5回
	居住地校交流 : 19回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	都留高等学校との交流（レクリエーション・学校見学）
実施した学部・学年	寄宿舎・全舎生（高等部）
<u>実践の様子</u>	
 	
キーワード探しゲーム	
  	
じゃんけん列車 学校見学（案内）	
<u>児童・生徒の様子や実践の工夫点</u>	
<p>交流を行う前にプロフィール交換を行い、お互いの生徒のことを知る機会を作った。残念ながら1回目の交流は、感染症の流行により中止となった。</p> <p>2回目の交流では、ハロウィンの時期に実施し本校寄宿舎生は手作りの衣装を身にまとい季節を感じながら交流を行った。普段は人と話すことが苦手な寄宿舎生も都留高校生との交流を楽しみにしていたこともあり、積極的に関わる姿が見られた。地域やお互いの学校にちなんだクイズを当てるキーワード探しゲームや都留高校の生徒が考えてくれたじゃんけん列車のレクリエーションをして親睦を深めた。また、都留高校生の多くが今回初めての来校だったので寄宿舎生が校内を案内し、お互いの学校の違いについて学ぶ機会となった。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・年間2回交流を行っているが、限られた回数の中で相手校への移動の時間もあり活動時間があまりとれないので、なるべく活動時間を多くとれるような工夫をしていくことが必要である。 ・来年度の寄宿舎生の人数や実態を考慮する中で、どのような活動をしていくことがお互いの生徒達にとって良いのか早めに検討し、方向性を決めていけるとよい。 	

学校名	ふじざくら支援学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 10回
	地域交流 : 7回
	居住地校交流 : 15回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	学校間交流（間接交流）：友達の商品を見よう
実施した学部・学年	全学部・全学年
<u>実践の様子</u>	
	
展示の様子	
	
見学の様子	発表の様子
<u>児童・生徒の様子や実践の工夫点</u>	
<p>本校の学園祭に学校間交流相手校の作品を展示し、見学を行った。 小学部3年生は、好きな作品を見付け、タブレットで写真を撮り、発表する活動を行った。作品が展示してある教室を見て周り、「〇〇だ。知ってる」「すごい」「これ、好き」など感想を言ったり、一緒に交流をした友達の絵や花火や遊具などの写真を見付け、喜んだりしていた。発表の場面では、自分で撮った作品を見せながら、好きなところを友達に伝えることができた。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も学園祭で展示を行い、見学する時間を設けていく。 ・児童生徒の実態に応じて間接交流のねらいを設け、実施していく。 ・本校の児童の作品を相手校に展示し、感想の手紙をもらい、喜んでいる児童が多かった。相手校と打合せを行い、直接交流だけではなく、間接交流でも友達を意識できる活動を検討していきたい。 	

学校名	山梨県立かえで支援学校
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流 : 13回
	地域交流 : 9回
	居住地校交流 : 22回
特徴的な実践例・工夫点	
授業名	地域交流：大正琴サークルつみき会との交流会（音楽）
実施した学部・学年	高等部・1年生
<p><u>実践の様子</u></p> 	
<p><u>児童・生徒の様子や実践の工夫点</u></p> <p>音楽で事前に大正琴についての学習を行った。大正琴に触れたり、演奏をしたり、歴史を知ったりするなど実態に応じて取り組んだこともあり、当日は意欲的に取り組む生徒の姿がみられた。本校の校歌『フレンズ』や、『ビリーブ』など生徒たちにとってなじみ深い曲を演奏していただき、興味深く演奏を聴いたり、曲に合わせて体を動かしたりする様子が見られた。大正琴の演奏を教えていただく中で会話も弾み、自分から地域の方に演奏の仕方を聞いたり、「演奏するのが楽しい」といった感想を伝えたりする場面が見られ、笑顔の多い心温まる交流会となった。</p>	
課題点・次年度以降に向けて	
<p>学年全体での交流となっているが、今年度の反省の中で、生徒の実態差が大きいいため、対象グループを絞って交流をしたほうがよいのではないかという意見もあった。しかし、地域交流は自立や社会参加について学ぶ高等部の生徒たちにとって、地域の方と関わる貴重な機会である。交流教育部としては全生徒を対象とした交流を実施したいと考えているが、学年の実態を考慮し柔軟に対応したいと考える。次年度も円滑に交流を実施できるよう、打ち合わせを綿密に行っていきたい。</p>	

問い合わせ担当（ 近藤 久美子 ）

学校名	山梨県立高等支援学校桃花台学園	
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流	10回
	地域交流	13回
	居住地校交流	0回
特徴的な実践例・工夫点		
授業名	学校間交流：（専門コース） 「互いのコースで学んでいることの体験」ベッドメイキング・窓清掃	
実施した学部・学年	高等部2年生 環境メンテナンスコース所属	
<p>実践の様子</p> <p>本校では、来年度から環境メンテナンスコースで「ベッドメイキング」について実習することとなった。そのことを踏まえて、介護現場でのベッドメイキングの実習をしている笛吹高校の生徒と一緒に活動をした。当日は、笛吹高校総合学科人間科学系列生活福祉コースの生徒からベッドメイキングの手順等を教えてもらい、本校の生徒は、窓清掃を教える内容で交流及び共同学習を行った。</p>		
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;">  <p style="background-color: #ADD8E6; padding: 5px;">説明を聞きながらメモを取っています。</p> </div> <div style="width: 30%;">  <p style="background-color: #ADD8E6; padding: 5px;">細かい箇所までアドバイスをもらいました。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p style="background-color: #ADD8E6; padding: 5px;">本校は、窓清掃の仕方を教えました。</p>  </div> </div>		
<p>児童・生徒の様子や実践の工夫点</p> <p>実際にベッドメイキングを行う場が介護現場と観光業との違いはあっても、共に学ぶことが多い交流となった。ベッドメイキングでは、笛吹高校の生徒が丁寧にわかりやすく細かい箇所まで教えてくれたおかげで、スムーズに作業を行うことができた。窓清掃では、授業で学んだことを一生懸命伝えようとする姿が見られた。生徒たちは、教えることの難しさを実感し、他校の生徒と関わることの楽しさを感じたようである。生徒たちにとって、貴重な経験となった。</p>		
課題点・次年度以降に向けて		
<p>以前から部活動等で生徒同士の直接交流を行ってきたが、昨年度から両校のコースの生徒が授業を通して交流を行うことができるようになった。この交流は、笛吹高校と本校の強みを生かした、この二校でなければできない交流及び共同学習になっていると考える。今後は、生徒が内容等も主体的に考え、運営もできるような交流を行っていきたい。</p>		

問い合わせ担当（飯嶋 多三恵）

学校名	山梨県特別支援学校うぐいすの杜学園	
交流及び共同学習 実施状況	学校間交流	回
	地域交流	5回
	居住地校交流	回
特徴的な実践例・工夫点		
授業名	緑化活動や制作物の展示などを通じた地域交流	
実施した学部・学年	全学年（小学部・中学部）	
<u>実践の様子</u>		
		
<u>児童・生徒の様子や実践の工夫点</u>		
<p>小学部・中学部合同で地域交流活動を実施した。具体的には、花の寄せ植えを作ったり、折り紙を使ったしおり作りをしたりし、学校近くの甲府伊勢四郵便局およびホテル湯王温泉へ寄贈している。</p> <p>【花の寄せ植え制作】 郵便局を利用する地域の方々に楽しんでもらえるよう、色の組み合わせや花の配置に工夫を凝らしながら作業を進めた。今年度からは、学校運営協議会委員でご協力いただいているホテル湯王温泉にも寄贈をすることとした。寄贈時には、中学部の生徒がプランターを現地まで運び、従業員さんと交流を深める機会となった。</p> <p>【しおり制作と今後の予定】 3学期には、児童生徒がオリジナルのしおりを制作し、郵便局へ寄贈する予定である。</p> <p>【地域への情報発信】 地域の方々に学校の活動を広く知ってもらうため、学期ごとに地域だよりを発行したり、児童生徒の作品を模造紙にまとめ、郵便局に展示掲示してもらったりしている。地域との触れ合いは限られているが、地域の方々に喜んでもらうことを意識しながら、学校と地域社会のつながりを考える貴重な機会となった。</p>		
課題点・次年度以降に向けて		
<p>・本校は児童生徒の実態や、個人情報に配慮が必要なため、直接の交流は実施できない状況である。今年度は緑化活動やしおりの寄贈、美術作品の展示等を通して、地域を知ることや地域の方々と間接的でも触れ合う機会ができればと考え、計画・実施を行った。</p> <p>・今後も、生徒の状況に合わせた触れ合いの機会をもつとともに、ホームページ、作品展示、地域だよりを通して地域とつながりを広げていくことや、さらなる交流の可能性を探っていくことが望ましい。</p>		

<p>学校名</p>	<p>山梨大学教育学部附属特別支援学校</p>
<p>交流及び共同学習 実施状況</p>	<p>学校間交流 : 6回(小:3回、中:2回、高1回)</p>
	<p>地域交流 : 3回(各学部1回)</p>
	<p>居住地校交流 : 1名(中学部)</p>
<p>特徴的な実践例・工夫点</p>	
<p>授業名</p>	<p>シニアクラブのみなさんとグラウンドゴルフをしよう!</p>
<p>実施した学部・学年</p>	<p>高等部全学年</p>
<p>実践の様子</p>	
	
<p>児童・生徒の様子や実践の工夫点</p>	
<p>甲府市新紺屋地区シニアクラブとの交流を通して、生徒たちはグラウンドゴルフの技術向上だけでなく、世代を超えた関わりの中で多くの学びを得ることができた。通常のグラウンドゴルフとはちがい、シニアクラブの方と本校生徒との混合グループを作り、チームで1つのボールをうち進めていくことで、シニアクラブの皆さんから助言を受けたり、打ち方を観察したりすることで、自身の成長を実感する生徒が多く見られた。</p> <p>また、プレー中や休憩時間の交流を通して、互いに名前を呼び合い応援するなど、自然な形で親睦が深まり、協力してコースを制覇する達成感を共有することができた。プレゼントの贈呈を通じて感謝の気持ちを伝える機会も設けられ、双方にとって温かく充実した交流の場となった。</p>	
<p>課題点・次年度以降に向けて</p>	
<p>交流の時間や内容について検討することで、より多くの参加者が十分に关われる工夫の余地があると考えられる。活動の流れや役割分担をさらに明確にすることが今後の課題である。</p>	

問い合わせ担当 (出戸 努)